

「重要文化財 即休契了墨蹟 与愚中周及偈」の修理が進められています

「重要文化財 即休契了墨蹟 与愚中周及偈」は、元時代の臨済宗の禅僧である即休契了(しっきゅうかいりょう 1269～1351)が、日本からの留学僧である弟子の愚中周及(ぐちゅうしゅうきゅう 1323～1409)に与えた餞別の偈です。即休の遺墨は、伝世品が少なく四点ほどしか確認されていないため、大変貴重な墨蹟です。しかし本作品は、本紙全体に擦れや横方向、縦方向の折れが発生している状態でした。また、貴重な裂地を継いで使用している表装は、多数の補絹が施されており、補絹箇所周辺には絹の重なりによる凹凸から折損等の損傷が生じています。そこで、国、東京都からの補助金を得て、安定した状態にすることで多様な活用に供するための修理を行うことになりました。

修理は、2019年度から2020年度までの2か年計画で、国宝修理装飾師連盟の加盟工房である株式会社松鶴堂にて進められています。初年度では、本紙の精細な状態調査、剥落止めを施し、必要最小限の水分を用いて総裏紙・中裏紙を除去する作業を行います。また、複雑な様相を呈している表装裂については、引き続き慎重に修理を進める予定です。完了後は、修理した表装に順応させる時間を取り、2021年度以降の公開を目指していきたくと考えています。

五島美術館では、今後もよりよい状態で所蔵品を受け継ぎ、次の時代へ伝えるため、修理・保存事業を積極的に行ってまいります。



本事業は、文化庁美術工芸品国宝・重要文化財美術工芸品保存修理抜本強化事業国庫補助金の交付を受けて実施されています。

Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2019.